

第92回気仙地区メーデー

今こそ心をひとつに！働く仲間の笑顔のために
感謝とおもいやりの絆をつなぎ 希望あふれる未来を切り拓こう！



気仙地区メーデーは、昨年は新型コロナウイルスの影響で見送り、二年ぶりに東日本大震災で被災して昨年度に復旧工事を終えたサンアンドレス公園を会場として開催し、第九二回気仙地区メーデーには一六団体一〇七名の来賓・組合員が参加した。アピールデモの中止、単組参加者の名簿提出、例年より来賓を含めて規模を縮小、マスク着用、検温・手指の消毒など感染予防策を徹底して実施した。コロナ禍の影響で参加を自粛した単組もあった。

実行委員会（連合気仙、平環気仙地区センター、大船渡地区友愛会）の事務局は、地協事務所に集合して資材を積み込み会場に移動、打合せ後、実行委員は、広い会場内に資材のセッティング、音響などを担当して準備作業を進めた。集会では、議長団に熊谷智徳さん（岩教組）、佐々木倭さん（東北電労）を選出し、実行委員会を代表して梅木委員長は、「コロナ禍により生活の危機が迫っている方も多く、今春闘も厳しい回答が多かった。あすへの希望が見えにくい状況にあるが、頑張っていくことと挨拶した。

連合

esen

No. 138

[2021.5.12]

連合岩手気仙地域協議会
大船渡市猪川町前田 9-17
TEL 0192-27-8671
FAX 0192-47-3471
http://www.rengo-iwate.jp/

発行責任者：梅木 博
編集責任者：星 正和

景品抽選券 当選番号

112	120	131	133	143
144	150	153	155	164
171	172	174	178	191
193	201	205	210	211
214	216	249		

選番号は、以下のとおり。事前に抽選した景品の当選番号は、以下のとおり。

その後、津波の心配がないとの広報が流れ、実行委員は会場から資材を撤収し車に収納、現地で解散した。実行委員会は、五月二八日に（おおひなほーとニフ会議室）総括会議を開催し、運営を振り返るとともに抽選会景品の引渡しをする。実行委員会以降の景品引換えは無効とするので、不明な事項は事務局まで問い合わせをお願いいたします。

来賓の皆さまを代表し高橋東北労金高田支店長、瀧本こくみん共済おおこ 釜石支所長から挨拶をいただいた。大船渡市長・陸前高田市長などのメッセージ、熊谷市議、東市議を紹介した。その後、メーデースローガン、メーデー宣言を採択、議長団が退任し、イベント運営に移る矢先、宮城県沖を震源とするM5.0 震度4の地震が発生、防災無線で避難アナウンスがされ、集会を中止、イベント以降の内容は実行委員会が扱うこととし、各自解散とした。

連合 労働相談ホットライン
0120-154-052

雇用の不安
雇止め
不安はありませんか？



四年目のボランティア活動 高田松原で再生植樹祭

陸前高田市の高田松原は、東日本大震災津波で約七万本のマツが流失した。気仙地協は県内の各地協にも参加を呼びかけ、四月二五日、「高田松原を守る会」が主催する再生植樹祭に五地協から二名が四年目の活動として参加をした。

現地八時集合で組合員家族が合流、遠方からの参加者は前泊での参加になった。受付後、植栽地で開会式と植栽の説明を受けた後、割当てられた区画内に入り目印に沿って、高さ50cmほどのクロマツの苗木をスコップで穴を掘り、土を水で潤してから丁寧に植えた。



高田松原は、マツ林を形成するための地盤を造成し、県が三万本、守る会が一万のマツ植栽を進め、守る会などによる再生植樹祭は平成二九年から続けられ、新型コロナウイルスの影響で昨春は中止、今年で最後の植栽を迎え、目標の一万本に達する。守る会では、新型コロナウイルスの感染対策を講じて植樹祭を計画、市内外から約三〇〇人が参加し、震災以前のようにならびに植栽した。白砂青松の景勝地復活を願う中、マツ苗五〇〇本を植樹した。

青年委員会 単組間交流 RENGO KESEN パークゴルフ交流会

5月9日、三陸パークゴルフ場において単組間交流会を開催した。コロナ禍に留意しつつ、各自の体調を確認、受付を行い、開会セレモニーでは下瀬川委員長の挨拶を受け、競技説明後、9時20分、グループ順に練習ラウンドをスタートした。天気にも恵まれ、参加者12名は、空振りをする場面もあって、思うようにいかないボールの転がりに一喜一憂、屋外の空気を吸って体を動かした。閉会セレモニーでは、競技成績の発表、イベント表彰を行った。-主な結果は以下のとおり-
優勝 木村大輔（東北電労）、準優勝 下瀬川浩平（東北電労）、3位 佐々木純理（三栄労組） ※イベント-ニアピン 佐々木純理（三栄労組）、田中湧太（三栄労組）、ホールインワン 星正和（地協事務局）

え、目標の一萬本に達する。守る会では、新型コロナウイルスの感染対策を講じて植樹祭を計画、市内外から約三〇〇人が参加し、震災以前のようにならびに植栽した。白砂青松の景勝地復活を願う中、マツ苗五〇〇本を植樹した。

植樹祭は、初日が天候悪化で中止、最終日は同市で新型コロナウイルス感染が確認されたことを受けて中止を決めた。感染症の収束が見通せないため、残っている約三八〇本は守る会の役員などにより植栽作業を行う。

らど

震災から一〇年が経ちました。震災時、うちの娘は一歳でした。保育園に迎えに行きた時は、先生に抱き寄せられ外で私の迎えを待っていました。そんな娘も今では小六になり私が昔やっていた事もあって小三の頃から大船渡のソフトテニススポ小に入り日々の練習を重ねる今では私と普通に打ち合えるまでに成長！今後の活躍に期待したい。

震災後に生まれた長男は現在小学四年になりました。長男は外で体を動かすことが好きみたいです。娘同様何かスポーツをやらせたいと思っていて、ところ、妻から南嶺小学校にできたBMXの体験をさせてみたいと言ったので行ってみたいことにしました。長男はBMXにはまったみたいで自分の意思で「これやりたい！」と言いつつスクールに入って本格的に始めることにしました。スクールに入ったので「MTB」を購入することに。息子の自転車なので息子に選ばせたいところ、「なっ！なんと！六万円！！高い！！」と、思っていたらタイミングよく「ママが買っちゃったよ」と言われて、早速に交渉して交渉成立！！息子に気に入った自転車を買ってあげることができました。（汗）

南嶺のコースは土なので行くたびに自転車が泥んこだらけに。練習が終わったらその自転車の洗車をするのが私。寒い時期は手が力こぼしに。いつになったら自分で洗ってくれるのかしら。

三番目は今年四歳！次男は何かやるのかな？子供達の成長が楽しみです。 将・S